

# 動労革マル・鉄労の対立激化



87. 6. 13  
No. 2575

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

### 「動労千葉とたたかう国鉄労働者をばげまし連帯する6・20集会」の成功かちとり、鉄道労連解体へ

☆☆☆☆☆☆  
動労革マルと鉄労の対立が激化する中、動労革マル松崎が、「労働組合なんて解散した方がいい」（一三三三回臨時中央委、松崎挨拶）と、鉄道労連の危機の深さがすでに極限にまで達していることを吐露した。この危機にのたうち苦しむ動労革マルにさらに痛打を浴びせよ。「6・20集会」の大成功をかちとり、鉄道労連を解体せよ！

☆☆☆☆☆☆

## 鉄労ペースにあせり

この臨時中央委での「挨拶」の中で松崎は、「分会を統一しなさい。ただちに」と、鉄道労連内での鉄労と動労の統一が全くできていないことに強い危機感を表明している。さらに「統一」にあたって「一方の組合（鉄労）の言うことだけを聞くというのが統一だと思ったら、大きな間違い。動労には動労の魂がある」と、鉄道労連内の主導権争いが鉄労ペースで進められていることにあせっているのだ。

## 危機深める鉄道労連 解体のチャンスは今

また、動労の方針に対して不満を抱く組合員に対しては「ストライキでも、なんでも、やったらいい」と表面上だけ「闘うポーズ」をとり、怒りをそらそうとしている。しかし、いくら怒りを動労千葉や国労にむけ危機を乗り切りとうとしても、動労革マル自体が裏切り者である

以上、その危機からは逃れられないのだ。動労革マル―鉄道労連の危機の深さというものは松崎自身が一番よく知っているのだ。動労革マルと鉄労との間が「絶対的対立」にある今こそ、解体の絶好のチャンスである。動労西日本の決起につき、動労革マル―鉄道労連に痛打を叩きつける。

「6・20集会」へ結集せよ！

**動労に鉄労 過激派との関係ただす**

鉄道労連の主要組合、鉄労（志摩好達組合長、四万二千〇〇〇人）が動労（松崎明委員長、三万三千人）に対し、動労幹部が過激派の中核派に襲撃された事件が相次いでいることに関連して、過激派との関係について明確にするよう文書で申し入れていたことが九日明らかになった。中核派は革マル派せん滅を宣言しており、動労幹部襲撃でも犯行声明を出している。このため、鉄労内では鉄道労連で動労と統一歩調をとることを懸念する声が出ており、今度の申し入れになった。

鉄労が五月二十一日に開いた全国代表者会議で、地方の代表から動労と過激派との関係を懸念する声が出た。一方、動労は、「答えるべき内容ではない」（中央本部幹部と突っ込まれている）。

（朝日）

修復不可能な両者の対立

## 土屋粹、動労千葉の反撃に脅え本線乗務下りる

「千葉地本」土屋一派による「4・7デッチ上げ事件」に対して動労千葉は、土屋一派が反論できないほどに組織の総力をあげて反撃している。現に、当の土屋粹は、本線乗務の際にいたる